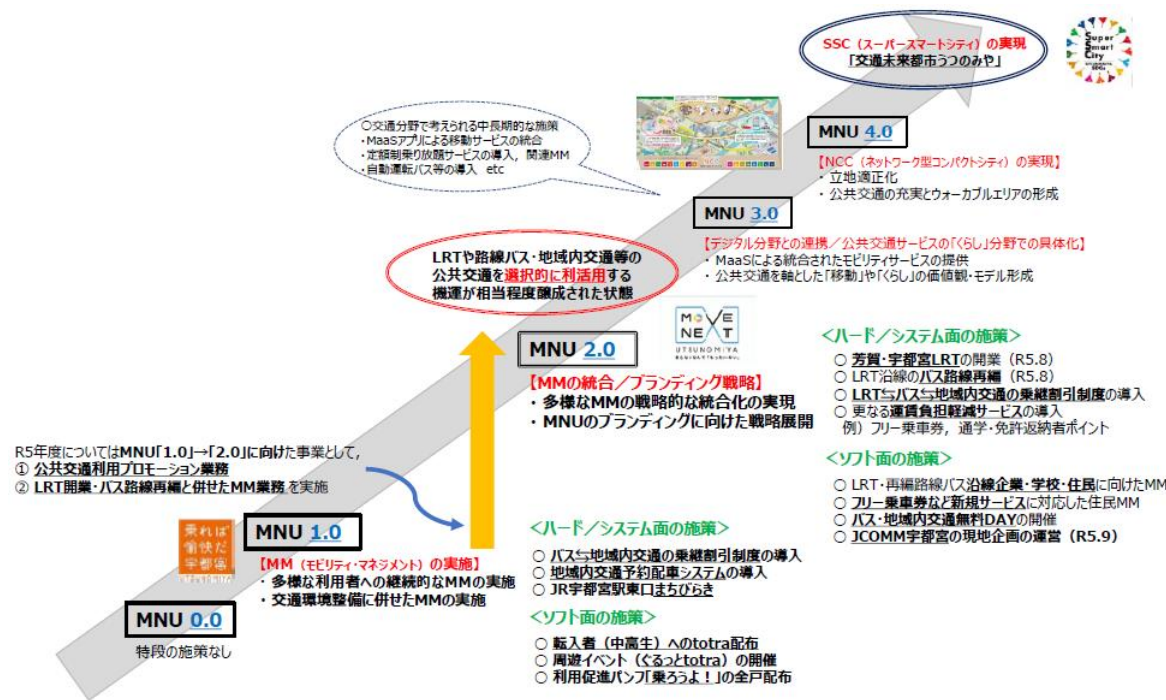


【資料4-1】R7年度以降のMNU事業の進め方について

背景・概要

- MNU事業については、R4年度から3年度間（会議発足から2年度間）にわたり展開
 - 6月に後期計画を策定した本市交通政策のマスタープラン「第2次宇都宮都市交通戦略」において、「子育て」「福祉」「環境」など他分野にまたがる移動課題の解決に向けた施策展開の重要性が示唆
 - ライトラインの西側延伸に向けた機運・意識醸成がスタート（西側開業は2030年代前半の想定）
- ➡ これらの状況の変化も踏まえた形で、R7年度以降のMNU事業の進め方を検討していく必要



MNUロードマップ（R5.6策定）



「第2次宇都宮都市交通戦略」における事業の位置付け

R4年度

R5年度

R5.8 ライトライン開業

R6年度

公共交通の
「**利便性向上**」
(利用環境の向上)



バスの上限運賃制度(日中のバス1乗車の上限400円)

バスー地域内交通間の乗継割引制度(200円)



ライトラインーバスー地域内交通間の乗継割引制度(100~200円)



【ターゲット】

有識者会議の稼働

全市民・来街者

パンフレット「乗ろうよ!」全戸配布



パンフレット続編「**もっと乗ろうよ!**」, 動画作成

広報PR戦略のアップデート(SNS・HPを活用した情報発信・アーカイブ+ **ニューズレター**発行)

公共交通PRブース出展(**開業記念式典**等)

ライトライン・再編バス路線沿線MM(**清原**)

経路検索システム「**乗ろうよ!ナビ**」開設



沿線住民

生徒・学生

中高生相当世代へのtatra配布

小児用tatra配布事業(各家庭へ引換券を送付)

新中学1年生へのtatra配布事業(全校), **出前講座**(希望校)

障がい者
高齢者

高齢者外出支援事業(10,000円分の福祉ポイント) 所管: 高齢福祉課

精神障がい者交通費助成事業(最大12,000円分の福祉ポイント) 所管: 障がい福祉課

事業所
市内

エコ通勤普及促進事業(国・エコ通勤優良事業所認証の取得支援, ラッピングバスの運行等)

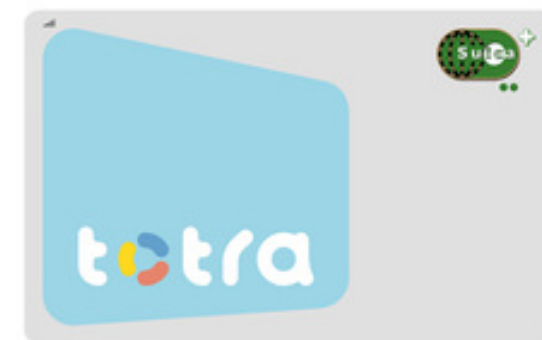
公共交通の
「**利用促進**」
(**MNU**)





これまでのMNUでは、公共交通利用促進パンフレット「乗ろうよ！」を元に「乗ろうよ！」のキーワードやデザインをブランディングイメージとして活用するほか、totraデザインを参考に青色を用いるなどして、統一感のあるイメージ戦略に寄与できた。

▼パンフレット第二弾「もっと乗ろうよ！」



▼経路検索システム「乗ろうよ！ナビ」



評価・検討課題の整理

目下の事業目標である「MNU2.0」の達成に向けた、令和6年度までの事業効果及び課題を整理する。

評価点	今後に向けての課題
令和5年度の有識者会議においてMNUロードマップを策定し、全体像を整理した。 	策定したロードマップは、MNU4.0以上を見越したマクロな視点のマップのため、 詳細に現在地を再確認し、今後何が必要となるのかの認識について、再整理が必要 となる。
MNUにおいては、事業開始後の3年間で滞りなく施策を実施し、プロモーション事業のアンケート結果等にも一定の効果が発現している。 	駅東側においては、ライトライン開業とバス路線の再編がなされたところであるが、西側への延伸・開業までは一定の期間があるため、 公共交通の環境を取り巻くフェーズの変化に対応した形で、今後のMNUのあり方を見直す必要がある 。
運賃負担の軽減やtotra配布事業等を通じ、公共交通の利便性や利用環境の向上に向けた制度面や支援策の整備を着実に進めてきた。 	より一層の利用者利便性や利用環境の向上に向けては、 MaaSの基盤整備など、デジタル化の観点を踏まえた施策展開の必要がある 。



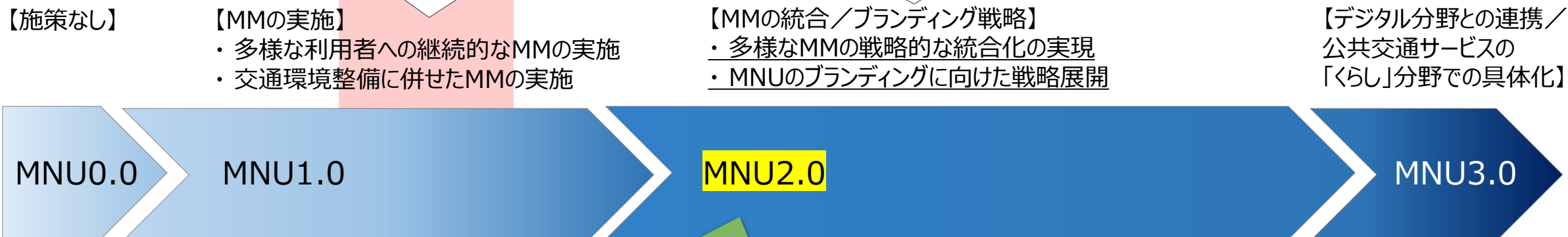
一定の効果は出ているものの、さらなる公共交通利用促進のため、上記課題を踏まえた形で今後の事業計画を検討していく。

MNUにおける現在地と達成度の整理

現在地

- ✓ 学校MMや企業MMなど、多様な利用者への継続的なMMを実施している
- ✓ ライトライン開業やバス路線再編に合わせて沿線MMを実施している

- ・ 各ライフステージに対応した切れ目ないMMには及んでいない & 施策の薄い層に対してMMを実施する必要がある
- ・ MNUの認知がイベント参加者の約半数
→ さらにPRとブランディングが必要

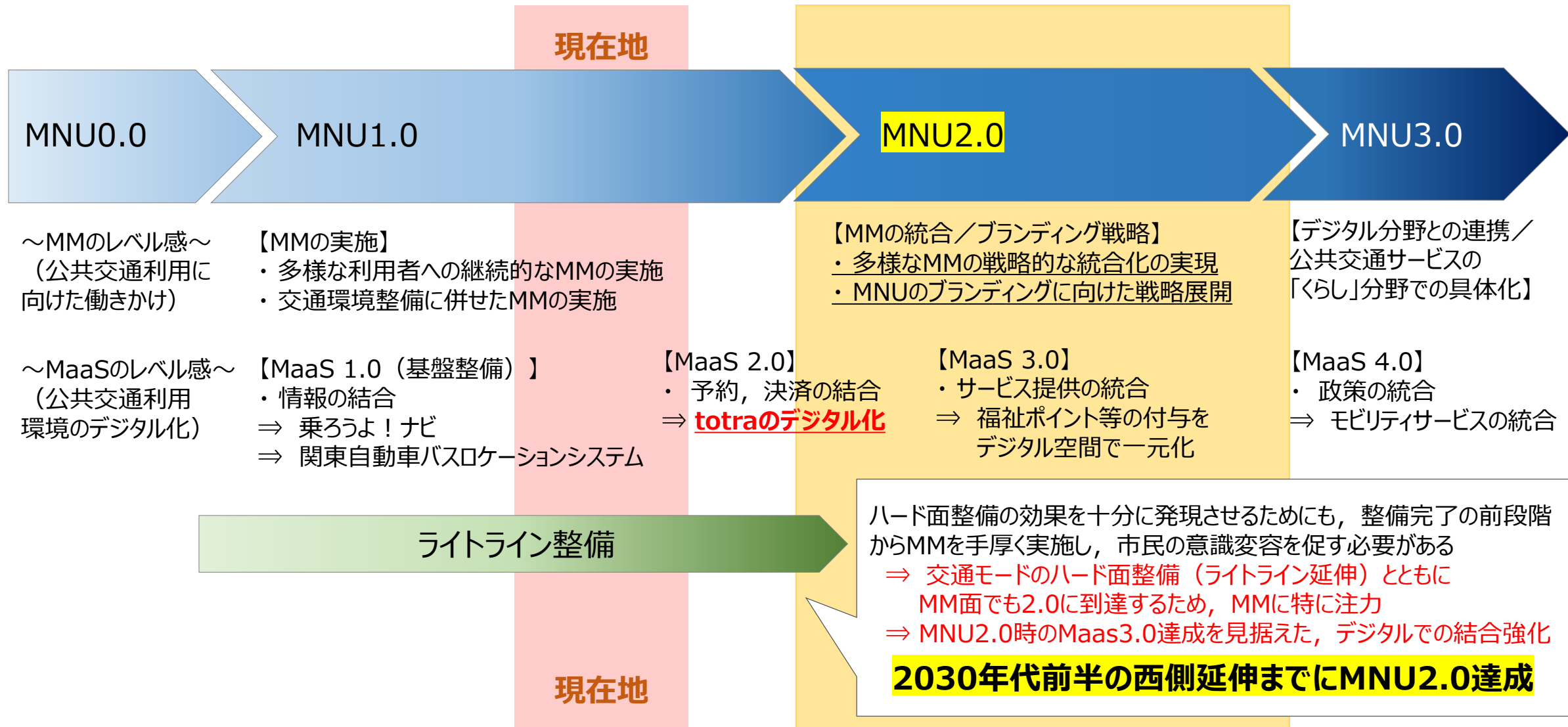


現在地

LRTや路線バス・地域内交通等の公共交通を**選択的に利活用**する機運が相当程度醸成された状態

「MNU2.0」達成に向けた目標の設定

MNU2.0への到達までに「何を」「いつまで」にしなければならないか、「どこへ向かえばいいのか」を整理する。



全体像の整理

令和6年度まで

MOVE NEXT UTSUNOMIYA（公共交通利用促進「運動」）
ライトライン開業やバス路線再編を節目とした“機運醸成”を軸に施策設計，実施

利便性向上策

- ・ 運賃負担軽減策
上限運賃制度，乗継割引制度
- ・ 公共交通利用環境整備，補助金
(ハード面の充実)

利用促進策

- ・ ライトライン・再編バス路線沿線MM
- ・ 小中学生・高校生へのtotra配布
- ・ 通学定期券補助制度
(ソフト面の充実)

情報PR (プロモーション)

- ・ 公共交通利用促進プロモーション事業
- ・ ニュースレター
- ・ プッシュ型の情報伝達
(ハード面，ソフト面の情報発信)

フェーズの変化

- ・ 公共交通の環境を取り巻くフェーズの変化
- ・ 西側延伸，開業まで一定の期間がある

令和7年度から

MOVE NEXT UTSUNOMIYA=「宇都宮版MM」と呼称し，

2030年代前半のライトライン西側延伸（ハード面整備の一定のゴール）のタイミングにMNU2.0を確実に実現するための施策

利便性向上策

- ・ Maasの基盤整備に向けた
デジタル技術の活用
- ・ 利用者目線に立った
各種サービスの**シームレス化**

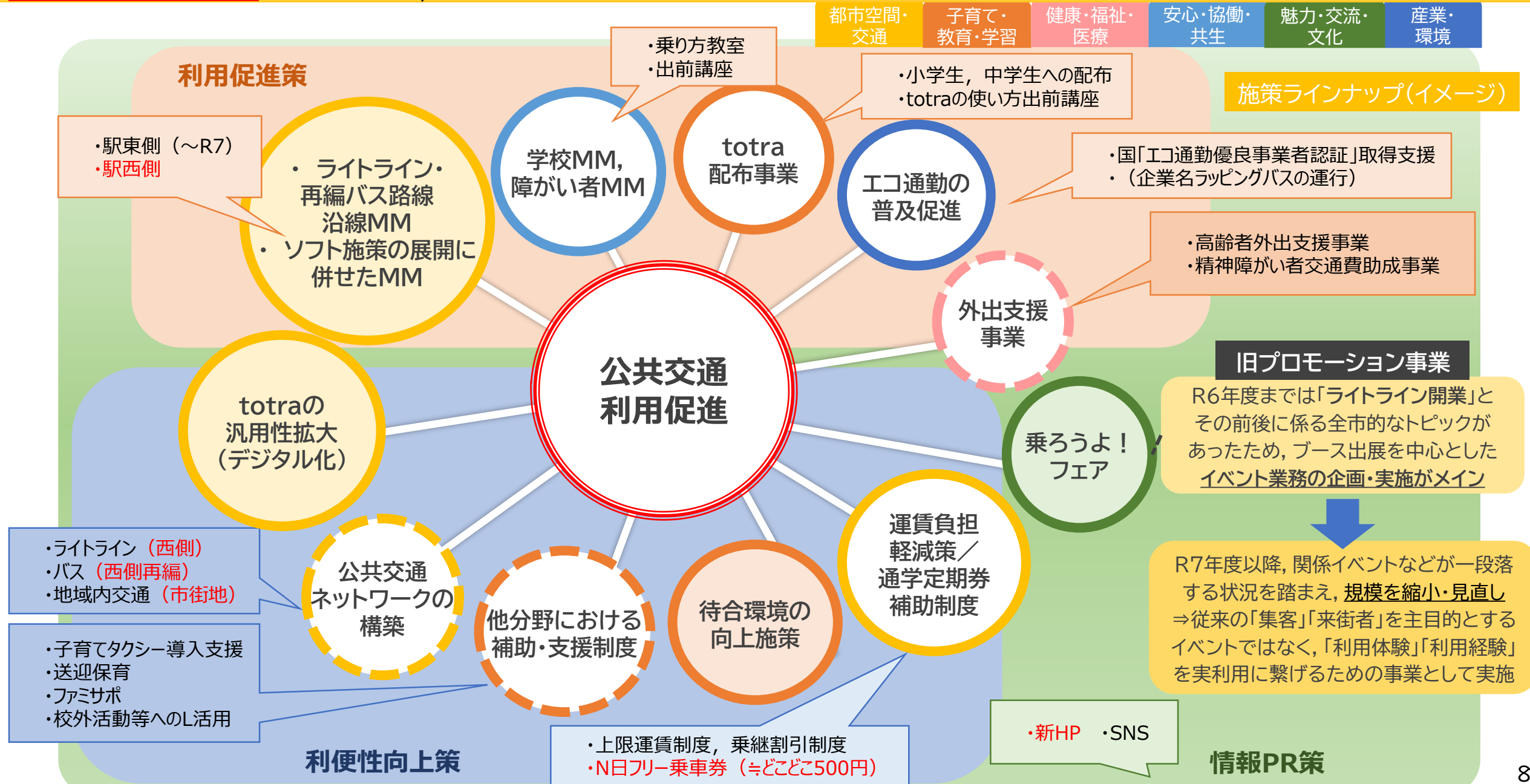
利用促進策

- ・ 多様な分野における**移動課題の
解決を目標にしたMM**
- ・ 市民ニーズや各事業の走り出しに
連動した**時期を捉えた働きかけ**

情報PR

- ・ 乗車体験，利用経験の創出に
特化した**体験型MMの展開**
- ・ 市民目線で「**望む人が確実に情報に
たどり着ける**」形式の情報発信

「宇都宮都市交通戦略」に掲げる各政策分野における移動課題の解決を意識した、**ターゲット型のMM事業**に重点化を図り、実施していく。



参考「第2次宇都宮都市交通戦略 後期計画」における評価指標一覧

取組みテーマ	数値指標(黒枠:産出指標/青枠:成果指標)	現況値	目標値(R10)	取組みテーマ	数値指標(黒枠:産出指標/青枠:成果指標)	現況値	目標値
多様な都市活動・市民生活を支える交通ネットワークの実現	公共交通夜間人口カバー率	92.5%	100%	市民一人一人の健康づくり・社会参加を支える移動環境の実現	人にやさしいバスの導入台数	67.1%	77.6%
	幹線道路の整備率	81.2%	83.8% (R9)		ほぼ毎日外出している高齢者の割合	31.7% (R4)	37.4% (R9)
	自転車走行空間の整備延長	73.1km	108.9km (R10)		健康寿命の延伸	男性80.01歳 女性84.15歳	平均寿命の増加分を上回る
	都心部と各拠点間の公共交通による移動時間	平均40分	平均40分 現況値を維持		交通安全教室受講者数	63,512人 (R4)	65,000人 (R9)
	宇都宮市内移動にあたっての運賃負担額	街なかまで片道最大500円以下	どこから乗ってもどこまで行っても実質片道最大500円以下	みんなの協力のもとで安心して外出ができる移動環境の実現	交通事故発生件数	1,238件 (R4)	930件以下 (R9)
	交通ICカードによる運賃支払いの割合	87.0%	90%以上		まちづくり活動に参加している市民の割合	23.8% (R4)	35% (R9)
	公共交通の年間利用者数	2,788万人(R4)	3,400万人		観光入込客数	1,271万人	1,500万人(R9)
	交通に対する市民満足度(公共交通ネットワーク)	36.4%	38.4%				
	交通に対する市民満足度(道路ネットワーク)	34.4%	52.4%	地域資源や文化をつなぎ、多様な人々の交流を促進する移動環境の実現			
	交通に対する市民満足度(自転車のまち)	30.7%	39.9%				
次世代を担う子どもや子育て世代に寄り添った移動環境の実現	ファミリーサポートセンター延べ利用人数	14,706件 (R4)	18,206件 (R6)	環境にやさしく、働きやすい社会を支える移動環境の実現	電気バス・タクシーの導入台数	8台	182台
					エコ通勤優良事業所認証数	64社	100社

課題感

MNUの達成指標 (KPI) として、
定量的な数値を提示していけるか？

【指標の凡例】

算出指標

成果指標

※新たに設定した指標は黄色網掛け